

まちで見られる虫たち

市街地の生きもの 広瀬重夫

ハサミムシとクラズミウマ



写真 2 6、ハサミムシ ♂
7 月、大倉山



写真 2 7、クラズミウマ ♀
1 2 月 、中島通 3

■ ハサミムシ ♂

公園の隅に置かれたゴミ箱を持ち上げると、地面との狭い隙間から一匹のハサミムシが出てきました（写真 2 6）。

体は平べったく、羽は退化して失われ、狭い所にひそんで食物をあさるのに適しているようです。

成長は不完全変態で腹端のハサミ（尾毛、尾肢）はこのなかま特有のもので、動く小動物を捕まえたり、敵と戦う武器となります。このハサミは雄では強く曲がり、雌ではゆるやかです。雌は子煩悩で卵を守り、生まれたての仔虫の世話をします。もともと熱帯や亜熱帯の昆虫ですが、人間の活動とともに世界に広く分布したようです。

■ クラズミウマ ♀

冬の朝、住宅街の道で見つけ、つかまえて家に持ち帰り写真を撮りましたが、影ができてまずいできあがりに失望しました（写真 2 7）。体は 2 cm 足らず、その割には足が長く、触角も長いですが羽はありません。

このなかまには、体に斑紋（はんもん）のないカマドウマや、大きなはっきりした紋のあるマダラカマドウマがいますが、いずれも屋内やその近くに住んでいる「仙人」のような感じの虫です。成虫で冬を越すのかもしれませんが。夜行性で雑食家です。

[このページのPDFファイル](#)



[トップページへもどる](#)